

福祉だより



●発行/北六甲台地区社協●発行日/偶数月●編集/北六甲台地区社協広報部●配布エリア/北六甲台・上山口東

北六甲台 & 上山口東の住宅街

第114号
令和3年2月19日

西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長 日高 昭夫

「紫色」と「虹色」の船出

四年前に「アメリカ第一」を掲げてトランプ氏が大統領に就任しました。その自国主義のスローガンは、アメリカだけでなく世界に多くの影響を及ぼしました。批判、対立、分断、排除という負の連鎖が広がりました。

四年後のアメリカ国民の審判は、辛うじてトランプビズムの継続に終止符が打つものでした。

分断の修復を担うバイデン新政権にとってトランプ支持の半数近い国民との融和が欠かせません。協調、融和、共存、包み込みという新たな連鎖を築かなければなりません。

大統領就任式にはハリス副大統領等の女性陣が紫色の装いで登場しました。共和党の赤と民主党の青を混ぜ合わせた紫です。新政権の船出を両党の「融和」を意図したファッションで演出しました。



「融和」と「多様性」の船出

年頭所感

会長 日高昭夫

バイデン新政権の閣僚人事が報道されました。女性、黒人、アジア系等のマイノリティが半数を占める布陣です。バイデン政権の「多様性」に満ちた虹色の布陣は、分断を克服し「融和」に向けた船出を窺わせています。

コロナ禍の分断と虚脱感

昨年初頭から人類はコロナ禍という未曾有の災禍に見舞われ、出口の見えないまま今尚続いています。一年を経てコロナ禍が地域にもたらす深刻な現実が見えてきました。ひとつは社会の分断です。感染対策のソーシャリスティクスは人と人とのつながりの分断という不安を抱かせます。感染者や医療・介護従事者を不当に非難し差別するという分断があります。経済活動と感染対策の優先順位を巡る葛藤は、現役世代とリタイヤ世代の分断を招きかねません。

今ひとつは、巣ごもり生活のもたらす心身へのダメージです。現役世代には在宅勤務が増え、運動不足や孤独化や家族関係のストレス等の影響が懸念されます。リタイヤ世代や高齢者には、外出自粛が身体への加速をさせ、社会との関りの希薄化が孤立化と精神的衰弱を招きます。フレイル（虚弱）と呼ばれる介護生活の入り口を引き寄せます。認知症当事者には認知機能の衰えを加速化させています。

地域包括ケアの行方

超高齢社会を迎え我が国は二〇二五年問題の対応が迫られています。団塊世代が後期高齢者を迎えることで医療・介護の現場は需要が供給を上回ります。政府は対応策として「地域包括ケアシステム」の実現を目指しています。端的に言えば医療・介護を病院・施設か

ら在宅・地域にシフトさせる仕組みづくりです。要介護者の自宅での介護は家族に過酷な負担を強います。地区社協、民生委員、自治会、老人会等の地域組織や関係者の支援が必要です。同時に病院、クリニック、介護施設、看護師、介護士等の専門職との連携の仕組みづくりも欠かせません。

ところが高齢化、少子化、共働き化、単身化の進行で地域コミュニティは脆弱化しています。更にコロナ禍が地域の分断と高齢者の心身の脆弱化を招いている現実も、コミュニティ脆弱化に拍車をかけています。

地域コミュニティの再生

コロナ禍の分断と脆弱化の対応や、地域包括ケアの具体化に向けて地区社協の役割は重大です。何よりも地域コミュニティの再生に向けて、多世代の多様な層の意向を汲みとる「多様性」が重要です。多様性をまとめ上げていく上での「融和」が欠かせません。



社協賛助会員について

ワンハズ・サポーター

日頃より北六甲台地区社協にご理解とご協力を頂きありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け活動ができない状況です。新年度が始まりコロナ感染が収まる傾向になりましたら、新規募集を実施致します。

『ワンハズ』とはワンコインの500円と援助の手という意味でのハンドを重ねています。地域の皆様には「共生の町」をめざしてサポーターとして財政面から支えていただけるよう宜しくお願いいたします。

個人会員は会費として一口500円（年間）
団体会員は一口5,000円（年間）ご協力頂いております。
（何口でもご加入いただけます）

<皆様の会費は以下のような事業に役立っています。>



広報誌「ぬくもり」発行

ふれあい喫茶

敬老お祝い訪問

子育てサロン「ともだちつくろう」

ふれあい交流会（食事会）

障がい者支援「青い空」

ボランティアセンター運営

令和二年を締めくくる各事業部の活動状況①

地域交流部・募金事業部

ふれあい喫茶(北六甲台)

十二月九日、令和二年最後のふれあい喫茶が、北六甲台自治会館で開催されました。

玄関ホールに手作りのクリスマスツリーが置かれ、従来のランブ点滅の派手さはないが、心のこもった飾り付けを感じました。受付では、コロナ禍の対策として検温を行い、私自身「三五・六度」と言われひと安心。アルコールで手を消毒して下さいと言葉に



「ああ、そうそう」と思わず振り返りました。

受付横に募金事業部の歳末助け合い募金箱が設置されました。街頭募金が出来ない状況下での十月の赤い羽根共同募金に引き続いての、ふれあい喫茶での募金活動です。

コーヒーを飲む時以外は、マスク着用厳守の会話です。来館される方は久しぶりの対面の方が多く、皆さん話しが弾みます。地域のコミュニケーション活動が孤立化防止に繋がります。絶やして

はならないこの活動に、やっぱり開催して良かったと痛感しました。地域に根付いた憩いの場所として、継続できることを願っています。会場を提供して頂いている自治会に感謝です。

ふれあい喫茶(上山口東)

十二月十六日上山口東自治会館においても、ふれあい喫茶が行われ、スタッフを含め二十名の参加があり、賑やかな懇談となりました。



市社協地区担当の中川さんの姿もありました。こちらの会場でもコロナ禍にも関わらず親しい方のお話しを、楽しみに来られている方が多いことを拝見すると、開催することの重みを感じます。会場提供して頂いた上山口東自治会と協力頂いたスタッフに感謝するしいです。

今後もコロナ感染防止に細心の注意を払い、活動していきたいと思いま

(広報部・小出)

ボランティアセンター いきいき体操

ボランティアセンターが主催して行っている「いきいき体操」は、現在毎月火曜日と木曜日の午前と午後の二回実施しています。十二月十日の午前十時からの体操に、広報部としてお邪魔しました。

開始三十分前にスタッフが、安心プラザ玄関に消毒アルコール、検温計、体調管理のための血圧計を事前に設置し、また、



令和二年を締めくくる各事業部の活動状況②

子育て支援部

ともだちつくろう



参加者の椅子の消毒を行い、準備作業も万端。この作業をスタッフが当番を決め、毎月約十六回行われていることを思うと、頭が下がります。体操開始五分位前には、参加者の皆さんがA室に集まり、各自おもりと水分補給のためのペットボトルを持参し、健康チェックも事前実施し、テレビの録画面面スイッチONで体操開始。

参加された皆さん！「継続は健康なり」です。健康維持のために、新年も頑張りましょう。本日午前の部の参加者十一名でした。

(広報部・小出)



十二月十八日は「ともだちつくろう」のクリスマス会、とても寒い朝でしたが、幸いお天気は上々です。今年にはコロナ感染対策の為、基本的にイベントは中止になっていきます。クリスマス会も例年は歌を唄ったり、ゲームをしたり、一年で一番楽しい行事なのですが、今年には飾り付けのみ。それでも、年内最後の「ともだちつくろう」を

盛り上げようと、スタッフ全員でクリスマスツリーをライトアップし、コミセンA室をクリスマス仕様に模様替えして子どもたちを迎えました。

初めてのお友だちも含めて八組の親子が参加し、皆で自由遊びを楽しんだ後、サプライズでサンタさん登場！プレゼントはスタッフの山迫さんが「コロナ禍でなかなか外で遊べない子ども達のために」とマスコットの釣りゲームを用意してくれました。可愛いプレゼントに子どももママ達もとても喜んでくれました。



いろいろなあった一年ですが、無事にクリスマス会を終えてホッとしました。新年はいっぱい楽しい事ができますように…。

(子育て支援部・鈴木)

障がい者支援部

今年度はコロナ禍の中「青い空」の開催は、午後一時からと短い時間となりました。

でも、居場所があり、一緒に過ごせる人達がいれば楽しく出来ると、クリスマス会を通じて改めて感じました。

サンタさんにはKさんがふくよかなサンタ姿で、大きな袋を肩に掛け小さくさやかでも、大きな楽しみのプレゼントを運んで下さいました。

プレゼントを頂いたTさんNさんの満面の笑みで、スタッフ一同心から癒されました。

みんなで八名の参加でしたが、三密の回避も出来、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

参加された皆さん、有難うございました。(障がい者支援部・井上)



歳末助け合い募金報告

12月9日(水)のふれあい喫茶と、18日(金)のともだちつくろで募金を実施しました。ご協力ありがとうございました。



19,632円